

はじめまして！

2020年12月に妻の友人である藤岡氏からお声掛けがあり、“事務所”にも使え、“地域のサロン”としても使える施設の設計をして欲しいとの事でした。

私は今まで住宅や商業施設、医院などの設計はしたことはあるのですが、果たしてどんな「デザインコンセプト」で？と考えました。

◎全体（ファサード）はシンプルで、解り易いかたちとレイアウト。

使う目的で変化し、飽きがこないこと。

駐車場は多めで、みんなが楽しめる庭は必要。

◎「懐かしくもあり、新しさもある。」そして直線だけの冷たい印象のディテールにはしない。

◎「集い、出会い語らう」空間には、『オ…！』『コレ何？』とか、普段目にしない不思議なものがあると楽しい。

◎地域や通りの風景の一部になり、そして親しみの持てる一画になって欲しい。

とか、まあいろいろな想いで計画させて頂きました。

果たして、いかがでしょう？

ご近所ですので、今後とも、

ちょこちょこ(TokoToko)

お邪魔したいと考えております。



(株)パツフォ計画工房  
山下勝実

～ 会長より一言 ～

皆様、新年おめでとうございます。

新型コロナにこれほど長く苦しめられるとは思いませんでした。

益々人間の真価が問われます。後の世に恥ずかしくない歴史を残したいものです。

みどりの新事務所

『Toko Tokoくるん』が、皆さんと共に成長することを願います。



大西多美子



9月11日  
【資源ゴミ回収】  
いつも「苦労様です。」



12月4日【介護予防レクチャー】  
いつまでも若々しくいたいとネ!!



12月18日  
【門松づくり】  
素敵な作品に  
仕上がりました。



藤岡みどりの

ワクワクレポート



第25号

2022.1.15 発行

発行：藤岡みどりを推薦する会  
代表：大西多美子・松前町議会議員 藤岡緑  
〒791-3132 愛媛県伊予郡松前町西高柳246-7  
☎ 089-989-3132 FAX 089-989-3131  
ホームページ <http://www.fujioka-midori.jp>



謹賀新年

『2022年は、新事務所で新たなスタートを!!』

2020年秋、事情により14年間活動拠点としていた事務所を移転せざるを得ない事態となりました。

★21年春、思い切って新事務所を建てようと思ったとき、今まで通り気軽に立ち寄り、身近な暮らしの情報交換やお困りごと相談など行政につながる話題の提供の場になればと思い、コミュニティ広場のように利用できる建物にしたいと考えました。

★そこで全体の設計を地域の友人に依頼し、工務店さんも現場に近い信頼のおける方をお願いして、父から承継した会社の物件（グリーン商事株）として建てることになりました。

★コンセプトは誰もが集える広場。だからこのイメージネームを【TOKOTOKO くるん】として、いろんな地域の皆さんがとことこ歩いてやって来れる場所としました。

★事務所につなげて作ったコミュニティスペースは、お茶を飲んだり、おしゃべりしたりみんなのサロンのように使える場所となっています。コロナで失いかけた絆を少しずつ取り戻していきましょう。お気軽にご利用下さればと思っています。



【コミュニティスペース】



【お泊まり？スペースも】



【来客の方はこちらに】



新事務所駐車場に置かれたコーンは夢のある楽しい絵が描かれた素敵な6本です。

・このコーンは町内にお住まいの若者の作品です。友人の薦めもあり、制作して頂きました。

私のシンボルマーク（クローバーの葉）もしっかり入ってます♪



参加行事  
アルバム

編集後記

「明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。」

昨年はコロナに翻弄された一年でしたね。藤岡事務所も移転し心機一転、今年は笑顔の耐えない事務所でありたいと願っています。(K.I)



メールアドレス

[fujioka.midori@gmail.com](mailto:fujioka.midori@gmail.com)

☆ブログ・フェイスブックでも活動内容の一部を公開しています。



仕事も捗ります♪♪



～みどりの一般質問より～



Q & A

6月

**Q. 地域の独居高年齢者が突然倒れた時などの生活支援は？**

**A.** 令和元年度国民健康保険連合会のデータや勤務先の健康診断や定期的に健康管理できる環境にあることを踏まえると、現段階では既往症による突然死の可能性はさほど高くないと判断。むしろ積極的な健康づくりに励んでもらうように、「健康づくりフォーラム」の開催、健康ポイントの付与など生活習慣病における心疾患や血管疾患の重症化予防の取組を推進し、地域支援としている。



★緊急時の連絡方法としては、スマートフォンなどによる見守りアプリの導入など、民間サービスの紹介、周知に努めたい。

(>0<)この年代の特に男性孤独死が社会問題にもなっている。

9月

**Q. コロナ禍で浮き彫りになった「生理の貧困」について、町の支援策は？**

**A.** 経済的理由により生理用品の入手が困難になる女性の社会問題で、21年4月より町内の小・中学校の保健室はもとより、女子トイレにも常備設置するようにした。さらに児童生徒以外の入手困難な女性に対しても、社会福祉協議会を通じて配布するよう検討している。

(>0<)この問題は経済的理由だけでなく女性の生理についての社会的認識にも深く関わることだと考える。

**Q. 町内のヤングケアラーの実情とその対策は？**

**A.** ヤングケアラーとは、一般に本来なら大人が担う家事や家族の世話を日常的に行っている子どもを意味する。本人の育ちや学校での活動に影響が生じやすく、早期発見と支援が重要と認識している。

国や県からも集中取組期間と位置づけ、適切な対応を求める要請があった。町内の事例に対しては学校が主となり家庭訪問や面談を行い、関係機関と情報共有し定期的な見守り支援を行っている。

(>0<)今後も増える事例に早期に発見、支援をお願いしたい。

**Q. 災害用備蓄に是非液体ミルクの検討を。**

**A.** 液体ミルクは、水や煮沸消毒を必要とせず開封後すぐに授乳でき常温で18か月の保存が可能のため、災害時の母乳代替え食品として期待されている。来年度以降の備蓄品の整備に購入を考えている。(^^)早速の導入の予定、期待しています。



12月

**Q. 増える高齢者の暮らしの支援は？**

**A.** 町内の高齢化率は31.4%と、年々増加している。特に生活に関する困り事の中では、通院や買い物、掃除、ごみ出しなどが挙げられているが、「医療、介護、予防、住まい、生活支援」を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築が課題と言える。各校区、また大字ごとに高齢者を支え合い助け合える協議体を設置し、地域情報を共有して生活支援体制整備事業として取り組んでいきたい。



支援体制が整うまでは、各地域のボランティアグループやシルバー人材センターなどのお力も借り、広報もしていきたい。

☆全体を通して・・・

この1年ずっとコロナ禍の中、住民生活に関連する最新のニュースをお届けできるように、各方面・各視点で質問をし、答弁をしていただきました。

『SDGsの活動も・・・』(SDGs:持続可能な開発目標の略称)

最近話題になっているこの活動は、世界中の人々が幸せに暮らしていくために国連加盟国193カ国が設定した17の目標と、169の具体的な目標を2030年までに達成しようとするものです。

一見壮大な目標のように思える17のゴールも私たちの生活にとっても身近なものであり、日常生活のちょっとした気遣いがこの活動に直結しています。



私の所属しているネットワーク松前のワイワイ座談会でも、この課題を取り上げ前田眞先生の講演やワークショップなどを通して、日常の食事や買い物など家事全般にわたる大事な視点を学びました。

来場者のアンケートからも、もっと多くの活動のヒントを得たいとの声を頂き、次回の座談会に期待が寄せられています。

★議会は「言論の府」であり、大いに討論がなされる場！

行政から出される案件に対し、意見が分かれるものについて、議員間でも大いに議論し考え方を話し合っ一致点を探ります。ただ、どうしても可否を決めないとけないものについては多数決となります。

昨年は「義農大賞」と「合併処理浄化槽設置の補助金」について大きく意見が分かれ、当初も補正予算についても修正案という形で議論になり、小差で否決となり修正はなく原案通り可決されました。

現在議員定数14名中12名で議会運営をいたしておりますので、ますます議員一人一人の議決に対する重責もあって、大きな課題については特に慎重な議論が必要になってきます。

『義農大賞』

義農作兵衛翁の偉業やスピリッツを町の知名度アップ、活性化につなげる継続的イベントとして予算化することへの是非が問われました。



『合併処理浄化槽設置の補助金』

廃止告知に猶予期間がなく、町内への新築計画を考えているものにはダメージが大きい。下水道事業が期待できない岡田・北伊予地区にとって、これが平等性の担保になっていたという意見。一方で町内の水環境全体を考える際に合併処理浄化槽設置と下水道設備の両輪で考えるものであり、新築時浄化槽設置義務化が法律に明記されているものに補助金を出す必要はないという行政側の考えがある。この二つについて議論となりました。

◎議員になってから14年間議会広報に携わってきましたが、9月議会人事(改選)でこの委員会を卒業し、予算決算常任委員会の委員長を拝命致しました。広報については優秀な後輩議員に託し、今後は予算決算という議論の多い舞台で調整役としてしっかり務めていきたいと考えております。